CONTENTS

第１部　全障研オンライン集会 2020　3
全国委員長あいさつ　越野和之　4
大会準備委員長あいさつ　二通　諭　6
基調報告　8
ライフステージごとの発達保障と実践の課題　研究推進委員会　18
特別報告　31
学校教育　大島悦子　32
放課後・地域生活　村岡真治　37
ミニ学習講座
①ゼロから学ぶ障害のある子ども・若者のセクシュアリティ　伊藤修毅　42
②障害の重い子の発達と生活　細渕富夫　43
オンライン集会　各地のようす、寄せられた声　44

第２部　北海道特集　知ろう語ろう北海道の仲間たち　47
旭川が呼んでいる　二通　諭　48
演劇「どんぐりの学校」
演劇のススメ　～ SHINGEKI 部の歩みから　山田勇気　50
解説　二通　諭　60
障害のある人の労働を考える～北の大地の仲間たち 2019
第１回　障害の重い仲間たちの働く意味をたしかめ合いながら　山浦幸喜　64
第２回　労働は生きている証　豊田久江　67
第３回　演出家としてのＰＴ（理学療法士）をめざして　佐藤桂一　70
第４回　「働く」を支える給食提供　川合真知子　73
第５回　障害の重い仲間こそ集団での労働が必要　藤中大気　76
最終回　相談支援の場から障害のある人への労働を考える－まとめにかえて　植田香美　79
サークル活動を通して学んだこと　安藤路恵　82
全障研道支部の生活圏拡大年史と札幌地下鉄３路線 49 駅ホーム可動式ドア設置後の事故減少効果の報告　高森　衛　84
実践の魅力　気持ちが伝わる安心感を育む　児童発達支援センターきらめきの里　88
ピース犬の満腹食べ歩き～北海道　91
嗚呼青春の大研究　ファッションについて　小野舞子　91
ニュースナビ　新型コロナウイルスのとりくみ　藤田明宏　92
この子と歩む
自分で決めて、人の中で成長する史也　佐藤幸子　94
娘の結婚・出産・子育てを支えて　三浦美榮　97
カムはこれからも世界を広げていく　中村抄理　100
漫画　ようこそ！　カムホーム　しおり　103
人として　子どもと生きる社会を問う　子ども食堂を皮切りに　二本松一将　109
いのちの手記　生きにくさを抱える当事者から　大橋伸和　110
編集後記　111

第１部

全障研オンライン集会 2020

主催者あいさつ

障害のある人たちの権利保障、発達保障について オンライン集会をきっかけに学び合おう、語り合おう

全国障害者問題研究会 全国委員長 越野和之

みなさん、こんにちは。全障研（全国障害者問題研究会）のオンライン集会にようこそご参加いただきました。この半年の間、新型コロナウイルス感染症の拡大する下で、みなさんのお一人お一人が、さまざまなしんどさや、厳しい局面と向き合ってこられたのではないかと思います。そうした中でも、本日は500人におよぶ方々が全国から参加して下さっています。全障研常任委員会を代表して心からの連帯を申し上げます。

このたびの感染症は、２月末の首相による全国一斉休校要請、４月からの緊急事態宣言などとも相まって、私たちの社会にこれまで経験したことのないような影響を与え続けています。感染が命の危機に直結しかねない障害の重い方々や基礎疾患を持つ方々、高齢の方々などをはじめ、だれもが、健康を害したり、命を奪われたりすることのないように、必要な対策を講じ、それをどの人にも例外なく届けていくことはもちろん大切な課題です。しかし、３ヵ月以上にわたる休校が、障害のある子どもとその家族の生活、学校や放課後等デイサービスの事業所などに与えた影響を見る時、また、緊急事態宣言の下で、各地の障害者施設や事業所が直面させられたさまざまな困難を思う時、この間の施策が、障害のある人たちとその家族、関係者のことをみじんも考えないものであったことは明らかではないでしょうか。

私たちがいま直面している困難は、感染症の脅威であるとともに、感染症拡大下における障害児者・家族の困難を顧みない政治によってももたらされています。こうした時だからこそ、私たちはよりいっそう、障害のある人たちとその家族、そして、これらの人たちの、人間らしい暮らしと発達の保障に寄与することを願って日々取り組んでいる多くの人たちが、自らの悩みや困難、それを乗り越えようとするさまざまな試みを交流し合い、語り合い、課題を吟味する研究運動をすすめなければなりません。

いま、少なくない地域で、直接に顔を合わせて悩みやねがいを語り合うことができにくくなっています。しかし、そうした状況の下で生じる孤立を放置してしまったのでは、直面する課題に応えることはできません。今後、感染症の長期化やさらなる拡大も想定せざるを得ない状況の下で、研究運動をどう進めるか。今日の集会は、その方法を探る一つの試みです。初めての試みですので、不十分な点も多いかも知れません。しかし、基調報告や特別報告、学習講座などを、各地で悩みとねがいを語り合い、課題を考え合うための素材としていただきたい、あわせて、当面の研究運動のあり方を探求するきっかけにしていただきたいと願って準備してきました。どうか、この集会を一つのきっかけとして、各地で、オンラインの活用なども含めて、さまざまなとりくみを試みて下さい。そして、その教訓を交流し、今後の研究運動への展望を拓いていきましょう。

なお、基調報告については、すでに公表した案に対して、各地からご意見を寄せていただきました。本日は「案」の段階のものをご視聴いただきますが、後日、いただいたご意見も反映させて確定版を公表しますので、ご活用下さい。寄せられた中には障害のある人たちのジェンダーとセクシャリティをめぐる課題についての自覚的な検討を求めるご意見もありました。大切な課題です。みなさんには、伊藤修毅さんの新刊『ゼロから学ぶ障害のある子ども・若者のセクシュアリティ』なども合わせて検討を深めていただくようお願いします。（本誌８頁～17頁に確定版を掲載）

この後、９月に予定されていた第54回全国大会の準備委員会を代表して二通諭さんからごあいさついただきます。旭川での大会をご準備いただいた北海道のみなさまに、心よりの感謝と連帯を申し上げます。今回の旭川大会は中止を決断せざるを得ませんでしたが、北海道のさまざまなとりくみに学び、また、全国のとりくみとも交流を深める機会は、いつか別のかたちで必ず実現したいと願っています。

今日、８月９日は、今から75年前に、長崎に原子爆弾が投下された日です。８月６日の広島に続き、人類が経験した２度目の核兵器でした。この原爆投下によってもたらされた惨禍と、それに連なる多くの、本当につらく悲惨な経験を経て、私たちは日本国憲法を手にし、国際的には国際連合が組織されました。国連のイニシアチブによって作られた障害者権利条約をはじめ、各種の国際人権法制は、日本国憲法と同じく、第二次世界大戦への反省に端を発しています。憲法を守り、生かし、障害者権利条約を羅針盤として、今日の状況の下で、一人の取りこぼしも許さず、障害のある人たちの権利保障、発達保障をすすめるために何が必要なのか、本日のオンライン集会をきっかけに、語り合い、考え合いましょう。みなさん、ともにがんばりましょう。

大会準備委員長あいさつ

「終わらない夏」 発達保障と権利保障の思想と実践のバトンを未来へ

全障研全国大会（北海道）準備委員長　二通　諭

こんにちは。全障研第 54 回全国大会（北海道旭川 2020）準備委員長の二通諭です。全国大会は中止になりましたが、それに代わるものとして、オンラインによる全国集会が開催できたことをうれしく思っております。みなさまにおかれましては、本集会で、開催されるはずだった全国大会の一端を感じ取っていただければ幸いに存じます。

さて、みなさまへの挨拶の時間を拝借して、第 54 回全国大会がいかに発想されたか、その発想の原点について申し述べておきます。『みんなのねがい７月号』北海道特集でも書きましたが、私は大会１日目の全体会の企画立案に関わっておりました。それは、全障研道支部の 1970 年代以降の半世紀の軌跡を辿り、大会テーマにある「終わらない夏」、「夏」には全障研大会と全障研が掲げてきた発達保障と権利保障の思想と実践が含意されているのですが、そのバトンを未来につないでいこうと企図したものです。

私の手元に全障研道支部が 1977 年１月に発行した『障害者科学運動第２号』があります。編集責任者は私の名前になっています。掲載論稿からこんな記述を見つけました。それは、前年の 1976 年１月に開催された全障研道支部冬期学習会の参加構成比とその評価です。

職域別、立場別構成比でもっとも多いのが 31％の学生です。次に多いのが 24％の教員です。障害者や施設職員の参加が少ないことを問題視しています。

年代別構成比（小数点以下四捨五入）でもっとも多いのが 53％の 20 代です。10 代が７％ですので、10 代・20 代で 60％を占めます。30 代が 20％、40 代が９％です。30 代、40 代の中堅層が少なく、経験の浅い 20 代の実践者と学生によって支えられている現状をどうすべきかと問題提起しています。その当時、圧倒的に若者が多く、年配者を組織できていないことを嘆いていたのです。なんと贅沢な悩みでしょう。私にしても 24 歳、新卒２年目の教員でした。

あれから、あの時の若者たちと上の世代の者たちは、なにを、どんな方法で創り上げていったのか。このことを振り返ることで、渡すべきバトンに中身が一層わかりやすくなります。

北海道で起きたことは全国どこでも起きていたことでしょう。北海道に限らない普遍性があるはずです。

残念ながら私たちが構想したスライド＆リレートーク「われら北の大地で育つ」は日

の目を見ることはできませんでしたが、もう一つの全体会企画であった北海道新篠津高等養護学校演劇部の「どんぐりの学校」については、本集会において、そのオリジナルバージョン（2016 年度）から一部を取り出して、みなさまにお見せすることができます。顧問の山田勇気先生のお話とともに作品世界の一端に触れていただければ幸いです。

以上、簡単ですが、全障研オンライン集会のはじめの挨拶とさせていただきます。

みなさまにおかれましては、良い学びになることをお祈り申し上げます。